

GKU 今と未来のクロストーク

CROSS TALK

東海学生リーグ1部に所属し、プロも輩出。強豪サッカー部でプレーした経験から得たもの。



PERSON 01



横山 智也さん

経営学部スポーツ経営学科4年
岐阜県立岐阜総合学園高等学校
FC岐阜U-18出身
第36回デンソーカップチャレンジサッカー
東海選抜代表

PERSON 02



知花 賢汰郎さん

サッカー部GM補佐
チーフアドミッションアドバイザー
岐阜協立大学(旧岐阜経済大学)卒業
JFA公認B級コーチ

ここから夢のフィールドへ。

[SPECIAL CROSS TALK]

恵まれた練習環境を最大限に生かし、
フィジカル・技術の両面を磨いた4年間。

知花: 入学当初に比べて体が大きくなったなあ。体をうまく使えるから相手選手に当たり負けしないし、フォワードなのに守備の面でも貢献できる。地道なトレーニングをして努力を重ねた成果だと思うよ。

横山: 元々は体の線が細かったのが、部のトレーナーさんに指導していただいたり、自主的に本を読んだりして、筋力アップは重視してきました。サッカー部には、専用の人工芝グラウンドの他にトレーニングルームもあり、利用できたのは助かりました。

知花: 技術面で成長した部分ってどこだと思う？

横山: 利き足ではない右脚の強化が課題でした。右足を使う癖

をつけて苦手意識をなくすことで、得意な左足がさらに生きよう
になったと思います。

サッカーの魅力に気づかせてくれた、
チームメイトや監督、コーチの存在。

知花: ところで、サッカーの魅力ってなんだろう。得点を決めたり防いだり、プレー自体は個人によるものなのに、それをみんなで共有して盛り上げられる一体感はサッカーならではの……。

横山: 僕も、サッカーは一人ではできないスポーツだからこそ、周りと協力してうまくいった時の喜びはとても大きいと感じています。

知花: サッカーを通して多くの人と出会い、成長させてもらえた

という実感もある。智也も良いチームメイトに恵まれたよな。

横山: 学年関係なく、本当に仲が良いチームでした。指導者の方々も選手の自主性に任せてくださり、自分達で試行錯誤しながら取り組めたのもよかったです。

“何事にも手を抜かず、やり遂げる”。
サッカーから得た教訓は未来に生きる。

知花: 僕自身、大学で過ごした学生時代を振り返ると、さまざまな学びがあり、感動や挫折も経験した。社会に出るための基礎が作られた場所であり、自分自身を一番成長させてくれた4年間だと思っているのだけど、智也の大学生活はどうだった？

横山: 大学に入るまではサッカーだけががんばろうという考えでい

たんです。でも、勉強と部活動はつながっていて、どちらかが疎かになったら、もう片方も疎かになってしまうという話を聞いて、勉強にも力を入れなくてはならない意識するようになりました。

知花: サッカー部総監督の高橋先生がよく話をされる、「文武不岐(学問と武道は別物ではなく、どちらが欠けてもいけないという意味)」の考えだな。

横山: どちらも同じように手を抜かずに取り組むのは大変でしたが、それをやり遂げ、勉強でもサッカーでも良い成績を残せた時はうれしかったですね。

知花: 東海選抜のメンバーに選ばれたのも、それを実践できたからだと思う。これからも、プロサッカー選手の夢に向かって成長を続けることを期待してるよ。